

——翌朝、私の身体に変化があった。

「何っ、これっ……………んんっ」

今まで感じたことのない性の衝動に襲われ、目が覚めた。

私の下腹部の雌の部分がとても切ない。

下着を確認するとグツシヨリ濡れていた。

「はあっ……………はあっ……………、私……………どうしちゃったの……………」

体のほてりと、秘所のぬめりをとるためにシャワーを浴びた。
すると少し落ち着いた感じがした。

まだ少し違和感はあるが、休む程ではないと思った。

私は学校へ行くことにした。



学校に行つてすぐは大丈夫だった。
だが授業中、朝感じた体の疼きがまた強くなった。
全く授業に集中できない。
（どうしよう………保健室に行った方がいいかな………）
なんとか発情を我慢していると、男子の一人と目が合った。

男子は何食わぬ顔で目線を逸らしたが、少し顔が赤いようだった。そして下半身をモゾモゾさせていた。ズボンの股間が盛り上がっているのを、私は見逃さなかった。よく観察すると、他の男子もチラチラと私の方を見ている。クラスメイトとして接してきた時とは明らかに違う、男子たちの目には欲情したオスの光があった。そんな視線に、私の秘所がさらに疼いた。



男の子と付き合ったこともないし、性経験も無かったのに。
何かのスイッチが入ったみたいに、私のメスの本能が溢れ出す。
(そうだな…………この疼きを満たせばいいんだ…………)

放課後に一人の男子に声をかける。

「ねえ…………、この後時間ある？」

男子は、顔を赤くし頷いた。

男子の部屋で二人つきりになると、
私は彼の肩にもたれかかる。

「私、もう我慢できないの…………♡」

二人は欲望のままにお互いを求めあい始めた。





「すげえ、これが女子のマンコ……」
「んああっ♡ おちんちん当たってる♡」
肉棒が私の花弁にズリズリと擦り付けられる。
「いいよっ来てっ♡」



「んんっ！」

「うおっ、中つあつたかいっ……!!」

膣肉をかきわけ異物が侵入してくる。

「あっああっ！」 おちんちん入ってるうう！」

男の腰がずんと突き出され、

肉棒が膣奥にぶつかる快感が体を走り抜けた。

「あひっ! んんんっ！」

ああ

ズブッ

んんん

「うっ、動くぞ……」
初めての交尾。

男はぎこちなく腰を振り始める。

「あひっ！ んんっ！」

あ
あ
♡

ビラッ

ズ
ブ
ッ





「うっ、うあっ!!」

ビュルッ ビュルルッ!

肉棒が震え膣奥に精子を叩きつける。

「ああああっ!!! でてるう!

んあああつ、すごいっ!」

あーん

ああ

ドッ
ビュッ
ビュッ

ビュ



「はあっ、はあっ、ごめん……………」
中に出しちゃった……………」

結合部から垂れる精子。

「いいの……………私も、気持ちよかったから……………」

お腹に広がる熱い感覚にメスとしての悦びを感じる。

でも、私はまだ満足出来ていなかった。

（まだ足りないの……………もっともっと感じたい……………）

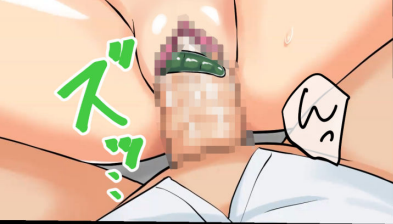


(もぅと……もぅと欲しい……)
その時である。

—ドクンッ—

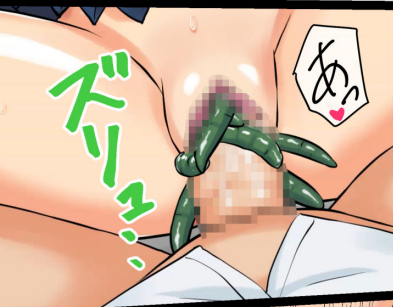
突如、体の奥から熱い何かが入り込んできた。

ドクンッ



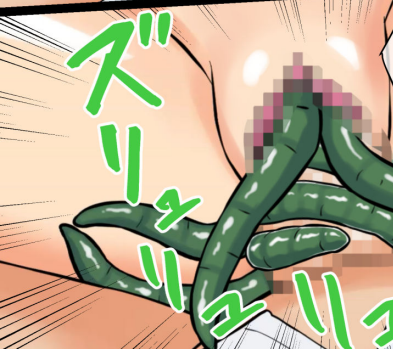
ズツ

ん



ズツ

あ



ズ
リ
ュ
リ
ュ
リ
ュ

あ



ああ

「うっ、なんだ!？」
男も違和感に気づく。
肉棒が入ったままの膣を、生え進む何か。
「ああん!! 私の中で……何か動いてっ
……っあああ!」



「うわああっ！　なんだこれえっ！」
結合部から、緑の触手があふれ出す。
間違はなく、昨日私を襲ったあのタネのモノ。
それが今、私の身体から生えていた。
「あっ、はあっ、これはっ……ああっ！」

ムルル
ムルル
ムルル

触手はウネウネと動き、膣壁を刺激する。

「ああっん！ だめっ、これ動いてっ！
っあああ！」

触手はペニスに巻き付き、そのままギュウギュウと締め付ける。

「うっ、くっ！ はっ放してくれえ！」

男はまた肉棒を膨張させていく。



「うあああつ！ 搾り取られるううっ！」

男はたまらず精を吐き出していく。

「んあああつ！ セーしててるううっ♡
あつ、んあああああ♡」

膣内に吐き出される熱いものを感じ、私は絶頂した。

触手はペニスを絞り上げていく。

男が苦しそうに限界を訴えても緩めない。



ああつ♡♡

ビュッ

ビュルルル♡♡

ビュッ♡♡

ギム

ギム

何度目か数えきれない射精。
やがて男は最後の一滴まで吐きつくし、
動かなくなった。



事が済むと触手は私の中にまた消えていった。
たっぷり注がれた精をお腹の中に感じ、恍惚とした笑みを浮かべる。

「あぁっ……………、気持ち……………よかった♡

こんな快感……………生まれて初めて……………♡」
下腹部を撫でると、ドクンと何かが小さく脈打った。

あの夜の出来事は現実だった。

私の中にはタネがいる。

タネは私の身体を侵蝕し、変えてしまった。

肉欲に溺れ、本能の赴くままに行動するメスへと。

